

# 令和7年度 事業計画書

(第32期)

自 令和7(2025)年4月1日

至 令和8(2026)年3月31日

(設立許可 平成3(1991)年12月20日)

公益財団法人 ホソカワ粉体工学振興財団  
大阪府枚方市招提田近1丁目9番地

## 1. 令和7年度 事業計画の概要

令和4年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻の長期化を受け、世界的なエネルギーや資源価格の高騰が続いています。この影響に加え、日本国内では円安に伴う輸入品価格の上昇や物価全体のインフレーションが継続しています。また、令和7年にはいわゆる「2025年問題」として、日本の人口構成が大きく変化し、超高齢化社会が到来すると予測されています。これにより社会構造や体制に重大な影響が及び、深刻な人手不足と人件費の上昇が見込まれています。これらの状況により、当財団の事業運営においてもコスト負担の増加が懸念され、事業計画の策定に際して十分な考慮が必要となっている。

こうした環境の中、令和6年度の理事会をはじめとする各種会議は、オンラインを併用したハイブリッド形式で実施し、その運用が定着しました。また、基本財産の運用については、円安の継続により当初計画通りの収入を確保する見込みです。さらに、平成31年度より中止していた助成事業の贈呈式を、ハイブリッド形式で昨年度に引き続き開催しました。当財団が発行する年刊英文学術誌「KONA Powder and Particle Journal」も予定通り出版し、粉体工学に関する講演討論会をグランキューブ大阪にて開催しました。

このように、政治的・経済的に変化の激しい状況下においても、令和7年度は引き続き不透明な要素が多く残されるものの、研究助成事業を中心に活動を展開してまいります。本年度も粉体工学および関連分野の発展に貢献するため、講演討論会の開催等を予定しています。また、事業見直しの一環として、昭和58年（1983年）に創刊され、平成7年（1995年）より当財団で出版を継続してきた「KONA Powder and Particle Journal」を、令和8年（2026年）初頭に刊行予定の第43号をもって休刊することを決定しました。今後は、有益な事業活動のさらなる発展を目指し、新たな事業の検討を進めてまいります。

## 2. 助成関連事業

令和7年度は、以下の5つの助成事業を実施する。

予算額 2,632万円（事業管理費を含む）

- ① 粉体工学に関する優れた研究業績に対する褒賞（KONA賞）
- ② 粉体工学に関する研究のための研究費助成（研究助成）
- ③ 粉体工学に関する若手研究者の優れた研究業績に対する褒賞（ホソカワ研究奨励賞）
- ④ 粉体工学に関する研究に従事する研究者の育成の援助（研究者育成援助）
- ⑤ 粉体工学に関する研究成果公開の援助（シンポジウム等の開催援助）

KONA賞は、粉体工学の分野において顕著な功績を残した研究者に授与される荣誉ある賞であり、財団設立当初より平成28年度まで、日本人研究者が推薦され、受賞してまいりました。平成29年度からは、初めて国際的な推薦応募を受け付ける体制を構築し、厳正な審査のもと授賞者を選定する仕組みを確立いたしました。その結果、平成29年度以降、アジア、欧州、米国からそれぞれ5名、3名、2名の研究者がKONA賞を受賞し、本賞は国際的な評価と知名度を一層高めております。令和7年度には、国際化施策の9年目を迎え、これまで構築してきた国際推薦・選考システムの円滑な運営を継続するとともに、更なる充実を図る所存です。

研究助成につきましては、近年、粉体および微粒子材料に関する研究が注目されております。これを踏まえ、多様な材料の特性や応用を考慮しつつも、粉体工学の視点を基軸とした研究支援を今後も重視してまいります。なお、助成申請においては、令和4年度より郵送形式から電子メ

ールによるデジタルファイルでの受付へと移行し、令和6年度においても運用上の問題なく登録処理の簡素化を実現いたしました。この方法は、令和7年度以降も継続して適用する予定でございます。

また、近年、粉体工学分野における博士後期課程の学生数が減少し、研究者育成に向けた支援の申請が減少する傾向が顕著になっております。この状況を鑑み、令和5年度に復活させたホソカワ研究奨励賞を通じて、粉体工学に関する若手研究者の優れた研究成果を称え、その功績を顕彰することで、若手研究者のインセンティブを一層高め、研究者育成を積極的に支援してまいります。

### 3. 財団自主事業

#### 3-1. 粉体工学に関する講演討論会の開催

- (1) 予算額 560 万円
- (2) 趣旨・内容

粉体工学の当面の重要課題を選定し、第一線で活躍する研究者（5名程度）を招いて最近の研究成果について講演いただき、その課題に関心を寄せる研究者や技術者を広く募り、講演と討論を通じて粉体工学の発展に寄与することを目的としております。この講演討論会は毎年1回開催され、会場は大阪と東京で隔年交互に実施することを原則としております。

令和6年度には、大阪にて粉体工学に関する講演討論会を開催いたしました。そして令和7年度には、9月3日（水）に東京ガーデンパレスを会場として、「先端分野を支える粉体の構造制御とその応用」をテーマに第57回講演討論会を開催する予定です。本会では、KONA賞2024の贈呈式を執り行うとともに、受賞者による記念講演を含む計6件の講演を予定しております。

本講演討論会においては、講演者と参加者の間で活発な意見交換が行われることを期待しており、実り多い討論の場となるよう努めてまいります。

- (3) 経費および用務の分担

本講演討論会の企画に関しましては、当財団理事による懇談会にて、講演者および討論の司会者の選定などを行っております。参加費はすべて無料とし、会場運営費、テキストの印刷費、講師の旅費・宿泊費、および謝礼などの経費を予算に計上しております。

#### 3-2. KONA誌（KONA Powder and Particle Journal）の発行

- (1) 予算額 860 万円
- (2) 趣旨・内容

KONA誌は、当財団が年1回発行する粉体工学に関する英文の学術誌であり、世界中の研究者から粉体の科学および工学に関する研究論文やレビュー論文を募り、これらを編集して発行しております。本誌は、全世界の関連研究者、研究機関、図書館などに広く無償で配布されるほか、インターネットを通じて無料でダウンロードすることも可能です。2010年6月以降、KONA誌のインパクト・ファクターは、学術雑誌の引用分析ツールであるJournal Citation Reportsに収録されております。また、2013年12月より国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が運営するオンライン学術論文データベース「J-STAGE」にも掲載され、2021年8月からは同じくJSTが運営するデータリポジトリ「J-STAGE Data」にも登録を開始しました。

令和6年度（2024年度）にはNo.42（2025）を出版し、18編の論文を掲載、合計289

ページにわたり編集しました。この号は 650 部を印刷し、国内外の関係機関に発送いたしました。最終号となる次号 No. 43 (2026) は、本編集委員会を中心に企画・編集・査読を進めるとともに、アジア、欧米ブロックの編集委員会の協力を得て、2026 年初頭の出版を目指して作業を進めております。

本誌への論文投稿については、アジア、欧米の 3 ブロックに分かれた編集委員会を通じて、編集委員がレビュー論文を中心に推薦を行っております。また、一般の自由投稿論文については、編集委員長判断のもと査読を経て、編集・出版を行っております。この際、2017 年より導入された JST 支援のオンライン投稿・査読システム「Editorial Manager」を活用し、特に欧米ブロックの編集委員会の協力を得ながら、投稿・査読・編集の円滑な運営を推進しております。

#### 4. 年報の発行

- (1) 予算額 100 万円
- (2) 趣旨・内容

年報は、当財団の活動状況を報告するとともに、財団の助成を受けた研究の成果を公表する目的で発行されております。年報には以下の内容が含まれます。

- ① 理事長挨拶
- ② 事業内容と実施状況の概要
- ③ 役員等名簿
- ④ 助成・表彰事業
- ⑤ 研究成果等の報告

当財団の年報につきましては、平成 28 年度年報 No. 24 が平成 29 年 5 月に出版され、その翌月に初めて J-STAGE へ掲載されました。その後、平成 30 年度には、PDF データが入手可能であった平成 16 (2004) 年度年報 No. 12 まで遡り、バックナンバーの掲載を実施いたしました。令和 7 年度には、令和 6 年度年報 No. 32 (2024) を財団ホームページに掲載するとともに、J-STAGE への掲載も進めてまいります。

以上